

# 阿南・那賀・美波 定住自立圏共生ビジョン懇談会 第3回（議事要旨）

## 【日 時】

平成23年8月17日（水） 午後1時30分～午後3時00分

## 【場 所】

阿南市役所 本庁舎3階 委員会室

## 【出席者】

出席委員：近藤光男委員（会長）、湯城豊勝委員（副会長）、秋本喜久雄委員、岩瀬公委員、上杉豊久委員、尾田信義委員、大石満喜子委員、大澤夫左二委員、片山悦子委員、川尻竹藏委員、川人建介委員、久米良久委員、児玉一郎委員、酒井勝利委員、澤田誠三委員、三宮建治委員、荒井義之委員、寶木正美委員、山口貴司委員、吉岡正俊委員、吉田道明委員、渡辺純子委員（22名）

欠席委員：江本友昭委員、熊原廣幸委員、中川正委員（3名）

オブザーバー：篠原守充（徳島県南部総合県民局企画振興部政策調査幹）、岡川雅裕（那賀町企画情報課長）、磯野晴幸（美波町総務企画課長）

事務局：尾山勝敏（阿南市企画部長）、美馬隆司、鈴江省吾、幸泉賢一郎、三河恭普（以上阿南市企画政策課）、草野裕作（美波町総務企画課）、大西壘（那賀町企画情報課）

説明者：担当者部会の各部会長

## 【次 第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 委員出席状況の報告
- 4 議 事
  - (1)パブリックコメントの実施結果について
  - (2)定住自立圏共生ビジョンの修正・追加事項について
    - ① 第1章～第3章 ・将来像、課題と対応策
    - ② 第4章 ・具体的な取組事業
  - (3)意見交換
  - (4)その他  
今後のスケジュールについて
- 5 閉 会

## 【議事要旨】

### 1. 開会（事務局） 午後1時30分

### 2. 会長あいさつ

第3回ビジョン懇談会への出席についてお礼を申し上げる。

前回の第2回会議では、各分野の1市2町担当者部会で検討された事業案を発表した後、委員から意見や要望があった。特に、ビジョンの将来像についても意見をいただき、「住む人、来る人の心をつむぐ、やすらぎと活力の光あふれるネットワーク」という将来像をつくることができた。住む人の心を「つむぎ」合わせて圏域をつくっていくという、そんな思いが込められた、いいキャッチフレーズだと思う。

今日は3回目で、ビジョンの策定に向けて最終の会議となる。これまでの各委員の意見を反映して追加修正した最終的な案ができていますので、各委員より忌憚のない意見やアイデアをいただきたい。

### 3. 委員の欠席について

- ・ 3名の委員より、所用のため欠席する旨の連絡があったことを報告。
- ・ 本日、説明のため1市2町担当者部会の部会長が出席していることを報告。

### 4. 議事

会長が議長を務める。

(会長)

- ・ 議事(1)のパブリックコメントの実施結果について、事務局に説明を求める。

(事務局)

(1)パブリックコメントの実施結果について

平成23年7月29日（金）から8月11日（木）まで、阿南市役所、那賀町・美波町役場、支所、住民センター及び1市2町のホームページにおいて、パブリックコメントを実施した結果、2人から6件の意見提出があったこと。また、各意見に対する阿南市（中心市）の考え方について、資料に基づき順次説明する。

(質疑・意見)

(委員)

- ・ 1市2町で多くの人口があるのに、意見を提出したのは2人というのは少ないと思うが、そのようなものなのか？

(事務局)

- ・ できるだけ多くの意見を求めるべく周知に努めたが、結果として2人の方から意見があった。他市の事例を見ても少ない傾向が見られる。

(会長)

- ・ パブリックコメントの方法については全国的な課題となっており、人口の多い県レベルでも応募数が少ないこともある。今回2人の意見があったことは相応の範囲と受け止めてもいいのではと考える。他に意見があればお願いしたい。

～意見なし～

(会長)

- ・ それでは、今回、パブリックコメントで寄せられた意見に対し、市の考え方を示して公表することに意義があると考え、具体性を求める意見等については、今後事業を実施するうえで反映していくということをお願いしたい。

(会長)

- ・ 議事(2)の定住自立圏共生ビジョンの修正・追加事項について、事務局に説明を求める。

(事務局)

(2)定住自立圏共生ビジョンの修正・追加事項について

- ・ 前回の第2回懇談会での意見や要望を受けてビジョンに反映した事項、及び総務省の助言により修正した事項について、資料（ビジョン最終案）により順次説明を行う。

①第1章～第3章について

将来像、課題と対応策

②第4章

具体的な取組事業

(質疑・意見)

(委員)

- ・ 阿南共栄病院の支援事業のなかで事業費が明記されていないのがあるが、何か理由があるのか？

(事務局)

- ・ 保育施設等の整備による医師・医療スタッフの確保支援事業については、4年間で事業化について検討し、5年目に事業費を確定して進めていく計画となっている。阿南共栄病院産科機能の維持・充実支援事業の事業費については現在調整中であり、事業費の額については今後詰めていきたい。

(委員)

- ・ 確認事項ですが、医師確保対策事業の事業概要で「医師会の協力を得て」とあるが、具体的にはどこを指すのか？また、公的病院へ開業医の代診医派遣に支援をするということだと思うが、公的病院とは具体的にどこを指すのか？

(担当部会長)

- ・ 「医師会の協力を得て」とは、阿南市医師会を中心としてご協力をいただくということを目指しており、公的病院は那賀町・美波町の病院を想定している。

(委員)

- ・ 那賀町・美波町には、公立病院はあるが公的病院は存在しないと考えるので、公的病院といえば厚生連の阿南共栄病院だけが対象となって支援するということになるのではないかと？

(担当部会長)

- ・ 公的病院に「等」を入れるのが適切かもしれないが、公的病院の基本的な考え方によると、「公的病院等とは国・県・市町のほかに日本赤十字社や厚生農業協同組合連合会で開設した病院をいう」とされており、公立病院も公的病院であると捉えている。

(委員)

- ・ 最終的に、このビジョンは誰が読むのを想定しているのか？  
市民ですか？市役所の職員の方なのか？

(事務局)

- ・ 市民の方を対象にしています。

(委員)

- ・ 市民の方も対象とするなら、ビジョンの中身に注釈を加えていただきたい。例えば、「医療クランク」であるが、一般の方で知っている人は少ないと思う。また、「ミッシングリンク」「デマンドバス」「AMA」等についても、直接目にするところに注釈を加えていただきたい。

(事務局)

- ・ 「ミッシングリンク」「デマンドバス」については前半の「課題と対応策」に注釈を載せているが、具体的な事業の欄にも注釈を加えたい。「医療クランク」等についても知らない方も多いと思われるので、専門用語等については最終的な製本の段階で注釈を入れるよう心がけたい。

(委員)

- ・ マネジメント能力の強化に係る政策分野で人材育成をメインに上げているが、市民も行政もこのビジョンを見るという観点では、どういった人材をめざすのかという具体的な内容が必要と考える。現在、職員にどのような資質が不足しているから今後どのような人材育成をするのかという具体的な着地点を明確にしないと人材マネジメントの能力としては機能しないと思うので、行政の方にご意見をお伺いしたい。

(事務局)

- ビジョンのなかでのマネジメントというキーワードは、圏域の地域資源や人材などの今、有しているものをいかに有効に大事に使っていくかという視点をマネジメントとして捉えているが、「どういった人材をめざすのか」について市民の方に分かりやすく表現していくことも必要であると感じている。

(委員)

- 職員の資質というところが気になっており、「どのような問題点があってどのように対処していくのか」といった点で市民目線として興味があった。

(事務局)

- 協定の取組内容のなかに職員の資質という表現があるが、資質について問題点があるのでそれをどう改善していくかという視点ではなく、あくまで圏域の活性化のために地域資源や人をどう活用していけるマネジメント能力を養っていくという意味なので御理解いただきたい。

(委員)

- 課題と対応策の安全・安心のところ、近年高齢者を中心に振り込め詐欺や悪徳商法となっているが、近年では悪質商法と表現しているので訂正をお願いしたい。

(委員)

- 医療の電子カルテの導入支援事業及び阿南医師会中央病院の救急医療・災害時医療機能の維持・拡充支援事業について事業費の金額が記載されているが、どういうところから算出されてきたのか？

(担当部会長)

- 事業費については各病院からの聴き取りにより金額を入れている。

(委員)

- 電子カルテの事業費の要望額の総和ということなのか？これでは、不足すると思うが、支援する額の総和ではないのか？

(担当部会長)

- 補助する額ではなく、事業全体に要する経費ということで聞き取りをさせていただいている。

(会長)

- そのほかに御意見は？

～意見なし～

(会長)

- 今日、①医療関係で事業費が未定の部分は平成24年度からの事業実施にむけて関係機関と検討していく、②医療についての確認事項、③市民に分かりやすいように専門用語等に注釈を入れる、④マネジメントに係る人材育成についての提言、⑤悪質商法についての語句の訂正、⑥医療の事業費についての質問など6件の意見があったが、全体的にはこのビジョン最終案について大きく訂正を求めるような意見は無かった。従って、今、皆さんからいただいた御意見に対して対応いただく、また修正できるところは修正するというので、この最終案を認めることでよいか。

～異議なし～

それでは、ビジョンの最終案については承認されたこととする。

(会長)

- 副会長から最後に何か発言ありますか。

(副会長)

- 各委員から積極的な意見交換があつて有意義な会になったのでは思っている。質問になるが、総務省の方から財政支援があるとのことだが、それはどこに充当されるのか、また別予算になるのかお伺いしたい。

(事務局)

- 現時点の試算では、中心市に34,000千円、周辺町に10,000千円が事業に応じてそれぞれの自治体の方に特別交付税として措置される。そのなかで、基本的には1市2町の役割分担のなかで予算化して事業を実施していくことになるが、事業によっては、単独の予算執行でなく1市2町の圏域で連絡協議会等を設置して一体となって実施する場合もある。

(副会長)

- 私自身、職場が阿南市で、那賀町に住み、美波町までも20分で行ける中間的なところに住んでおり、この3つの圏域エリアが本当にうまくリンクされれば非常に住みやすい圏域になると感じる。委員の皆さんは非常に意識が高いので、今後とも「まちづくり」に積極的に意見を寄せていただくことを期待したい。

(会長)

次に、議事(4)のその他の件について、事務局に説明を求める。

(事務局)

(4)その他

今後のスケジュールについて

第3回ビジョン懇談会の後、8月末に阿南市議会への報告を経て9月上旬にビジョンを公表し、幹事会や担当者部会等で具体的な事業実施体制や予算編成を行い、平成24年度から事業に着手し、実施に当たっては、PDCAサイクルにより必要に応じてビジョンの見直しを行っていくことを資料に基づき説明する。

(会長)

ただいまの事務局の説明について、御意見、御質問を求める。

～意見なし～

(会長)

- ・ 意見が無いようなので議事についてはこれで終了するが、今日が最後となるので、私から、感想と今後の期待について少し発言したい。  
阿南・那賀・美波は地方の典型的な地域であり、全国的に人口減少や少子高齢化が進展するなかで、若者や高齢者の住民意識の多様化、買物や医療などによる日常生活の広域化で行政区域の希薄化が進展し、これまでの地方自治体の行政システムでは地域住民のニーズに合わなくなってきた。  
そのため、これまでの行政組織を超えた地域ガバナンスという考え方にに基づき、自治体の枠組みを超えて互いに連携して生活に必要な機能を整備していくという定住自立圏構想が生まれ、圏域の地域ネットワークや地域マネジメントが求められている。  
そういったなかで、今回、委員各位からいろいろな意見を伺い、今後の方向性を決めるビジョンが策定できたことで、この懇談会の目的が達成できたと思っている。私は地域づくりやまちづくりの仕事をしているが、計画づくりがゴールではなく、ビジョンが地域に反映されて実際に形となり、地域の皆さんが安全・安心で、生きがいのある生活を実感できることがゴールであると考えている。ビジョンができた今がスタートであり、これから事業や施策を展開していくためには行政や委員の皆さんをはじめ、住民が力を合わせて、PDCAサイクルの流れの中で5年のビジョンに取り組むことが必要であると思う。今後、皆さんと協力して阿南・那賀・美波がよい地域になっていくことを願いつつ私の最後の発言とさせていただきます、私の役目を終えたい。

5. 閉会のあいさつ 午後3時00分

阿南市企画部 尾山企画部長

(終了)